

## 「頑張る地方応援懇談会 in 埼玉」議事概要

1 日 時 平成19年 2月10日(土) 15:00~16:40

2 場 所 産学交流プラザ 彩の国8番館 1階 セミナールーム  
埼玉県さいたま市中央区新都心1-5

### 3 出席者

#### 【市町村長】

とみおか	きよし	くまがや
富岡	清	熊谷市長
さいとう	ひろし	ところざわ
斎藤	博	所沢市長
さわべ	せい いち	はんのう
沢辺	清 壹	飯能市長
あらい	いえみつ	ふかや
新井	家光	深谷市長
すだ	けんじ	にいざ
須田	健治	新座市長
おざわ	のぶよし	もろやま
小沢	信義	毛呂山町長
かとう	よしろう	よこぜ
加藤	嘉郎	横瀬町長
のぐち	しげのぶ	みさと
野口	重信	美里町長
おがわ	いしち	すぎと
小川	伊七	杉戸町長

#### 【総務省】

おおの	まつしげ	総務副大臣
大野	松茂	
うえだ	ひろし	自治行政局公務員部長
上田	紘士	
いくしま	ふみあき	自治行政局自治政策課長
生嶋	文昭	
あおき	のぶゆき	自治財政局財務調査課長
青木	信之	
ふかざわ	としき	自治税務局資産評価室長
深澤	俊樹	
やまもと	たきお	関東総合通信局情報通信部長
山本	滝夫	

### 4 次第

#### (1) あいさつ

- ① 大野 松茂 総務副大臣
- ② 斎藤 博 所沢市長

#### (2) 総務省からの説明

- ① 頑張る地方応援プログラムについて
- ② 地方行財税制上の諸課題等について

#### (3) 意見交換

## 5 要 旨 〔主な意見〕

### (1) 市町村長

- ・ ふだん何気なく、周りにあるものを地域資源として生かしたことに、これからも一生懸命取り組んでいきたい。ハード面でのまちづくりというものも必要だろうが、ハードよりもソフト面で存在価値を高めていきたい。ハードものだと、でき上がってそれを市民が使って完結だが、メディアあるいはその他の媒体を通じてPRをすることによって、まちの独自性を発揮して、そして、我が町に少しでも寄ってもらえる、そういったPRを積極的に総務省でも応援してくれればありがたい。
- ・ プロジェクトの策定、公表ということだが、プログラムを一からずっと立ち上げていくということではなく、既存の事業について各分野ごとに横断的に組み立てていくというようなことも必要ではないか。トータル的に、横断的にやっていくプロジェクトというような形のものでも差し支えないのであれば、いろんなプロジェクトが立ち上がってくると思う。
- ・ 山間地域は、今、林業不振だとか、過疎とか高齢化とか、最近は特に有害獣の出没で大変な地域になっている。そこに住む人たちは愛着を持っていながらも大変住みにくいということが大きな課題。市では「森の番人制度」というのがあり、今、山にいる若い人に、市のほうで1日1万8,000円の日当を払うことによって、私有林の管理、いろいろな森林体験学習の講師をお願いしている。この制度は山村地に若い人たちを定着させるということでは効果がある方法で非常にユニークだと考えている。
- ・ 市民には自分の庭を多く市外の方に見ていただきたいという機運があった。また、花のまち深谷を実感する面として、とにかくこれを一つのイベントとしてできないかということで、ガーデンシティふかや構想を策定した。これには、①花のPR、②ガーデニングに使うレンガ、土管類の地元の産業のもう一つの創出性が生まれる、③非常に行政が厳しいなかで公共事業で花、植木を緑地化するのは大変だが個人の庭をまず緑化できればという側面があった。市としても、公共事業の一環、公共のサービスとして花を植栽することなく、非常に道路の沿線沿いにもガーデニングができるようになり、経費面でも助かっている。このように、市がやれと言ってもなかなかできるものではないし、また、補助金がつくからやりましょうと言ってもなかなか市民はついてこない。行政はひたすら見守ってサポートする姿勢を持っていないとこういう新たなイベント事業というものができないと感じている。
- ・ 平成6年から、リストラ本部等もつくり、経費の節減、事務の効率化を徹底してやってきた。もうこれ以上、何をやればいいのかというぐらいな経費削減策は打ってきた。市民参加ということを中心に据えており、ごみの分別等も徹底し、リサイクルへ回す

運動も徹底している。10万人以上の都市では、市民1人当たりのごみ量は下から数えて全国で第3位で非常にごみの少ない市にもなった。また、ボランティア活動とコミュニティ活動も徹底してやってきた結果、219のボランティア団体が生まれており、市政の一翼を担っていただいている。今回のこの頑張る地方応援プログラムだがみんな頑張っているところに、さらに頑張る地方応援プログラムを提出しろと言われても、何を出したらいいんだろうかとなる。過去の実績を出すのなら簡単だが、これからさらに、また頑張れと、何か見つけてプログラムをつくって出せと言われても、なかなか大変だというのが正直な実感。また、支援措置だが19年度は2,700億円程度。不交付団体だと特別交付税も厳しい。また、この交付税による支援措置でやるということだが、この9つの指標のデータを使ってどういうふうに評価をされるのかがよく見えない。これからも頑張っってやっていきたいと思うが、この地方交付税で支援をするという9つの成果指標の中身がよく理解できない。

- ・ 頑張る地方応援プログラムということで、私も大いに期待を寄せているが、いわゆる住民の満足度の評価という面も加味できないだろうか。ただ単に人口が多くなったかどうかということだけでなく、その生活面においてどれだけのプラスがあって、住民が満足をしているんだというようなことも考えていただければ思っている。
- ・ 各市町村は相当、行財政改革、経費の削減をやっている。当町も10年ぐらい前から、四役の給料も2割カットしている。いろいろ町長交際費もすべてオープンにしているし、入札の結果もすべて公開。職員も110名から90名と、15年間で今後30億の経費を削減するとか、そういうこともやっている。

## (2) 総務省

- ・ この頑張る地方応援プログラムを進めている中で、もう頑張りがないんだという声も実は全国的にはある。しかし、地方分権を進めていく中では、具体的に私たちのまちはこんな取り組みをしているんですよということをお互いに示し合っていただくことも大事だと思う。
- ・ 頑張る地方応援プログラムを実施していくときに、実は関係省庁との連携も必要である。農林水産省との連携、経済産業省との連携、国土交通省との連携、それぞれの省庁がそれぞれ補助事業やいろんな形での支援のプログラムを持っている。これらと連携をとって、今取り組んでいる仕事、あるいはこれから取り組んでいこうとする仕事に対する応援をさせていただきたい。
- ・ 頑張るプログラムについて、既存の事業で既にかかなりの実績を上げている分野がある、もうこれ以上数字が上がらないという考えがある。これに関しては19年の普通交付税の算定は、どのようなプロジェクトを掲げられるかとはかかわりなく、過去の努力に対してそれを反映できるような算定としていく。また、このプロジェクトだが、

市民参加の姿勢、森林の都市づくり、いろいろ取り組まれているプロジェクトをまた新たにつくるのではなくて、既存のものを掲げられても構わない。その成果目標は9つの成果指標とは別のものであるから、独自の成果目標をそこに掲げて、それをホームページ等を通じて公表するというようなものをイメージしていただきたい。

- ・ 9つの指標について評価がされるのかという点については、評価を加えるということではなく、データに基づいてあくまで客観的に算定するもの。
- ・ 19年度においてはこの9つの指標による算定のあり方を検討していくことになるが、20年度以降の算定では、新しい指標も含めて、各地方公共団体の皆様方のご意見をいただきながら検討していくもの。

(以上)